

伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 (①修03-09-4/5)

目 的

本プロジェクトでは文化財修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。伝統的修復材料に関しては、製法・使用技法・材料物性などを研究することにより、伝統技術を記録し、その有効性を科学的に検証する。一方、近年、文化財修復に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した、技術や材料を開発することを目的とする。

成 果

伝統的修復材料と技術に関して、調査研究を行った。具体的には、昨年度から行っている建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を纏めるとともに、日光東照宮や厳島神社などの建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図った。また、あらたにpy-GC/MS分析装置を用いて建造物の塗装材料をはじめとする各種修復材料の基礎試料分析を開始した。漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査では、岩手県二戸市浄法寺地区周辺にわずかに残された漆室の漆工材料と用具（民俗資料）の整理と歴史的な漆塗料の分析調査を行った。紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行い、適切な紙を選ぶための基礎データを集積するとともに、データベース化も継続して行った。合成樹脂の劣化についての調査では、ポリビニルアルコールの劣化状態の再現実験を試みた。また、本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を継続した。ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続して進めた。さらに「建築文化財における漆塗装の調査と修理—その現状と課題—」というテーマで、第3回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催した。

研究会の開催 1件

- ・第3回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「建築文化財における漆塗装の調査と修理—その現状と課題—」 東京文化財研究所 10.1.21

学術雑誌等への掲載論文数 2件

- ・北野信彦、本多貴之、佐藤則武「初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査」『保存科学』49 pp.25-44 10.3 (ほか1件)

学会、研究会等での発表件数 5件

- ・岡田祐輔、川野邊渉、早川典子、坪倉早智子、中條利一郎「顔料剥落止めとして利用されたポリビニルアルコールの白化状態の調査と白化原因の探索」文化財保存修復学会第31回大会 倉敷市芸文館 09.6.13-14
- ・北野信彦、本多貴之、宮腰哲雄、窪寺茂「建築文化財における塗装技術の調査とその評価・応用に関する研究」文化財保存修復学会第31回大会 倉敷市芸文館 09.6.13-14
- ・本多貴之「漆塗料の劣化メカニズムを探る」第3回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「建築文化財における漆塗装の調査と修理—その現状と課題—」 東京文化財研究所 10.1.21
- ・加藤雅人「補紙・補絹の動向」第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復—先端と伝統—」 東京国立博物館 09.11.12-14 (ほか1件)

報告書の刊行 1件

- ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2009年度』 東京文化財研究所 105p 09.3

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、早川典子、加藤雅人、山口加奈子、川端冴子（以上、保存修復科学センター）、舘川修、本多貴之、坪倉早智子（以上、客員研究員）